

Special Feature

西九州新幹線



9月23日 西九州新幹線開業！！

9月23日、待望の西九州新幹線（武雄温泉・長崎間）が開業しました。武雄温泉駅では、在来線特急と同一ホームでの乗り換えが可能になり、博多・長崎間は最速1時間20分と、従来よりも30分短縮。各駅では開業イベントが催され、多くの人でにぎわいました。喜びにあふれた開業当日の様子をご紹介します。



長崎駅



新大村駅



武雄温泉駅



諫早駅



嬉野温泉駅

武雄温泉駅 Takeo-onsen Station

嬉野温泉駅 Ureshino-onsen Station



新大村駅 Shin-Omura Station



諫早駅 Isahaya Station



長崎駅 Nagasaki Station



西九州新幹線
開業レポート～前編～
公開中！



※ JR九州提供

長崎駅 前夜から盛り上がる中、スタッフもギリギリまで準備作業を行う



長崎の街が1日を終える頃、長崎駅のコンコースには、そわそわした空気が流れていました。数時間後に挙行される開業記念式典の準備が行われている横では、工事関係者が天井の配線など最後の点検を行っています。一方、自動券売機には翌朝の乗車券と新幹線特急券を購入する人が並び、駅舎の外には一番列車である「かもめ2号」の自由席に乗車を希望する人が長い列を作っています。誰もが新幹線が走り出す瞬間を心待ちにしています。



在来線3番ホームに、特急「かもめ45号」の最終列車が到着。多くのファンが「ありがとう特急かもめ」の旗を振って迎えました。

最終列車が到着した後、構内では運賃表や案内板の付け替えが行われます。在来線コンコースの案内板からテープが剥がされると「西九州新幹線のりかえ」の文字が現れ、自動券売機の運賃表も、開業後のものに改める作業が行われていきます。



開業記念式典の受付開始。地元関係者や報道陣などが次々と集まってきました。一番列車への乗車を希望する人たちの列も駅舎内に誘導され、徐々に開業ムードが高まっています。



齊藤大臣と長濱ねるさんを先頭に、自動改札を初めて通過する「改札口通り初め」が行われ、続いて改札内コンコースで齊藤大臣をはじめ大石知事、田上長崎市長、河内鉄道・運輸機構理事長による祝辞が述べられました。この間に乗客の入場も始まり、一番列車の「かもめ2号」の乗客は13・14番ホームへ、入場券で列車を見送る人たちは11・12番ホームへ上がっていきます。



開業記念式典がスタート。長崎市出身で西九州新幹線広報大使を務める女優の長濱ねるさんが一日駅長に任命され、齊藤鉄夫国土交通大臣や大石賢吾長崎県知事をはじめ16名によるくす玉開きが行われました。



テープカットの後、長濱ねるさんと萱嶋長崎駅長の合図で遂に一番列車の「かもめ2号」が発車！出発の様子はかもめ口（東口）の駅前広場からもよく見え、新幹線の開業を待ちに待っていた市民からも歓声が上がりました。



一番列車は無事出発しましたが、長崎駅には続々と市民や観光客が集まってきました。三連休はまだまだ始まったばかりです。

長崎

諫早

新大村

嬉野温泉

武雄温泉

諫早駅 諫早発！体操界のレジェンドが送る出発合図

諫早駅で一日駅長を務めたのは、諫早市出身でオリンピック2連覇、世界選手権6連覇を果たした体操界のレジェンド、内村航平さん。内村さんは、「まさか自分の町に新幹線が通るなんて思ってもいなかった。一度と言わず、これから何度も利用したい」と、感慨深そうに挨拶しました。くす玉開きには、内村さんや地元諫早市の大久保市長をはじめとする島原半島の首長が集まりました。6時26分、諫早駅では下り一番列車の「かもめ101号」と、上り一番列車の「かもめ2号」が顔を合わせます。出発式は1分早く発車する上り「かもめ2号」のホームで行われ、内村さんは、山口諫早駅長とともに右手をピンと上げ、体操競技を思わせる美しい仕草で出発合図を送りました。



新大村駅 大村・諫早両市の地元ユニットが開業を盛り上げる



大村線竹松・諏訪間に新設された新大村駅では、6時20分当駅始発の長崎行き「かもめ101号」の発車に合わせて式典が行われました。新大村駅の日駅長は、地元大村市と諫早市の中学生から成る3人組ユニット「poppo（ポッポ）」。駅正面玄関で行われたくす玉開きには、園田大村市長をはじめ周辺地域の首長も参加し、西九州新幹線と新大村駅の開業を祝いました。続いて改札内コンコースで、大村藩伝統の五色塀を背景に園田大村市長や平田長崎県副知事らによる祝辞が述べられ、舞台は下り12番ホームでの出発式へ。井手新大村駅長と「poppo」の合計4人による、にぎやかな出発合図となり、列車が動き出すとみんなで手を振って見送りました。

嬉野温泉駅 歴史ある温泉街に、初めて新幹線の警笛が鳴り響く

1931年に肥前電気鉄道が廃止されて以来、91年ぶりの鉄道開業となった嬉野温泉駅では、鉄道好きとしても知られる女優の松井玲奈さんが一日駅長に。くす玉開きでは、嬉野出身の女優、三根梓さんも加わり、村上嬉野市長や南里佐賀県副知事らとともに開業を祝いました。出発式が行われたのは、6時42分発の上り「かもめ2号」。長崎から初めての列車が到着すると、ホームに集まった関係者や市民から歓声が上がります。テープカットの後、松井玲奈さんと中野嬉野温泉駅長が揃って出発合図を送りました。初めての警笛を響かせて発車していく「かもめ2号」。沿線きっての観光地とあって、駅前にも早朝から市民や観光客が集まり、笑顔で開業を祝いました。



武雄温泉駅 4歳の”電車大好き”一日駅長が出発を見送る



在来線との接続駅となる武雄温泉駅で、一日駅長の大役を任されたのは、武雄市に住む4歳の岩井世運くん。電車が大好きな彼は、祖母が駅舎内でカフェを営む佐世保線上有田駅で、「ちびっこ駅長」として活動している縁から一日駅長に選ばれました。式典では、山口祥義佐賀県知事や小松武雄市長らによるくす玉開きや祝辞が披露され、舞台は在来線と新幹線の接続が行われる10・11番ホームへ。6時48分、長崎駅からの一番列車「かもめ2号」が到着し、折り返し武雄温泉駅始発の「かもめ1号」となります。山口知事や小松市長らによるテープカットが行われると、向かいの10番ホームに博多駅からの「リレーかもめ1号」が到着。スムーズな乗り換えが行われた後、7時03分、山本武雄温泉駅長と岩井世運くんが出発合図を送ります。「プーン！」と誇らしげな警笛を鳴らし、「かもめ1号」は長崎駅に向けて走り始めました。